



アラブ首長国連邦

派遣期間 2022 年 4 月～2025 年 3 月

## ドバイ日本人学校 実践報告

～ドバイ日本人学校「ならでは」の教育活動等～

帯広市立大空学園義務教育学校

教諭 重堂 真也

### 1 アラブ首長国連邦 (UAE) とドバイについて

アラブ首長国連邦は、7 つの首長国から成り立つアラブ人の国である。

1971 年、アブダビ、ドバイ、シャルジャ、フジャイラ、アジュマン、ウンム・ル・カイワインの 6 首長国によりイギリスの保護領から独立した（ラス・ル・ハイマは翌年）。12 月 2 日が建国記念日（UAE ナショナルデー）である。

建国 50 年ほどの歴史しかないが、アブダビが産出する石油の利潤やドバイの外国からの資本の流入で、急速に都市化・近代化が進んでいる。

2004 年 11 月に建国の父であるザイード大統領が、2022 年 5 月にその後を継いだハリーフア大統領が逝去し、2022 年 5 月にムハンマド・ビン・ザイード・アール・ナヒヤーン新大統領が誕生した。建国以来、アブダビ首長が大統領に就任している。ドバイ首長であるムハンマド・ビン・ラシード・アール・マクトゥーム氏が副大統領兼首相を務めている。

UAE 原油の大部分を産出するアブダビと、貿易や観光、金融に力を入れているドバイの 2 首長国が、政治・経済の面で主導権を握っている。なお、日本大使館は首都アブダビにあり、ドバイには、総領事館がある。

連邦として一国の形態をとっているが、内政面では首長国ごとに多くの違いがあり、異なる「国」という意識が強く残っている。

ドバイの人口は、約 350 万人である。インド、パキスタン、バングラデイシュ、フィリピンといったアジアから、イギリス、フランス、ドイツなどのヨーロッパ、さらにはケニア、南アフリカなどのアフリカまで、様々な国籍の人が暮らしている。UAE の純粋な国籍を有する人“Emirati” は、1 割程度しかいない。

現在、ドバイには、約 3,400 人の日本人が住んでおり、中東・アフリカ地区で最大の人数を誇る。UAE 全体の日本人は、約 4,500 人なので、在 UAE 日本人の 70% 以上はドバイ在住ということになる。ドバイでは、ジュベル・アリという世界最大の人工港を中心に自由貿易が進めら

United Arab Emirates



れ、経済活動が盛んである。また建設や観光にも力を入れており、ブルジュ・ハリファやパーク・ジュメイラ、ドバイフレームなど「世界一」と名のつく建物が多くある。街中のいたるところにある高層ビルやホテルを見ると、ドバイが中東・アフリカ地域の拠点であることを実感できる。建物だけでなく、人々にも活気があり、ドバイ全体がエネルギーであふれている。



世界一高い人工建造物  
ブルジュ・ハリファ



世界一大きい額縁  
ドバイフレーム



世界一大きい人工島  
パーク・ジュメイラ

## 2 ドバイ日本人学校の概要

ドバイ日本人学校は、1980年4月、小学生30名、中学生3名、派遣教員3名、現地採用教員2名でスタートし、2024年度に44年目を迎えた。開校当初は一般民家を借用していたため、教室・校庭とも満足な施設とは言えず不自由な思いをしていた。しかし、学校運営理事会、日本人会、先輩の先生方のなみなみならぬ努力の結果、1987年12月、長年の念願であった新校舎が完成した。



ドバイ日本人学校の玄関

また、コロナ禍にあった2021年度には教室が不足して、新たにプレハブ教室を増築した。旧校舎は市街地にあったため、十分な広さを確保できなかったが、現校舎は、約4,400坪の敷地に建てられている。普通教室、特別教室、体育館があり、体育館を含む全室に冷房がついており、酷暑を気にすることなく学習に集中できる。校庭は、約200mのトラックがとれる十分な広さである。

とはいっても、完成から37年が経過し、現在の校舎の老朽化が進んでいる。生徒の安全面や学習活動の充実、今後のさらなるICTの活用を考えると、十分な設備であるとは言えない。このような現状を踏まえ、2022年度「新校舎設立委員会」が発足された。

1999年2月から、本校では週5日制が実施されている。イスラム教の礼拝の関係で、木、金曜日が週休日となっていたが、2006年9月には金、土曜日に変わり、2021年12月から、土、

日曜日が週休日となっている。ローカルスタッフの礼拝時間に配慮し、金曜日は午前授業である。

多くの児童・生徒はドバイに派遣されている日本企業の子女であるため、家族の転勤に伴う編入学や退学が頻繁である。2007年ごろまで児童・生徒が増加傾向にあったが（最大237人）、2009年度より緩やかに減少傾向になり、現在は横ばいの状況である。現在の在籍数は以下の表の通りで、中東・アフリカ地区で最大の日本人学校である。

在籍数（2024年7月18日現在）

学年	小 学 部						中 学 部				総 計	
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3		
人 数	13	22	16	16	17	11	95	7	10	6	23	118

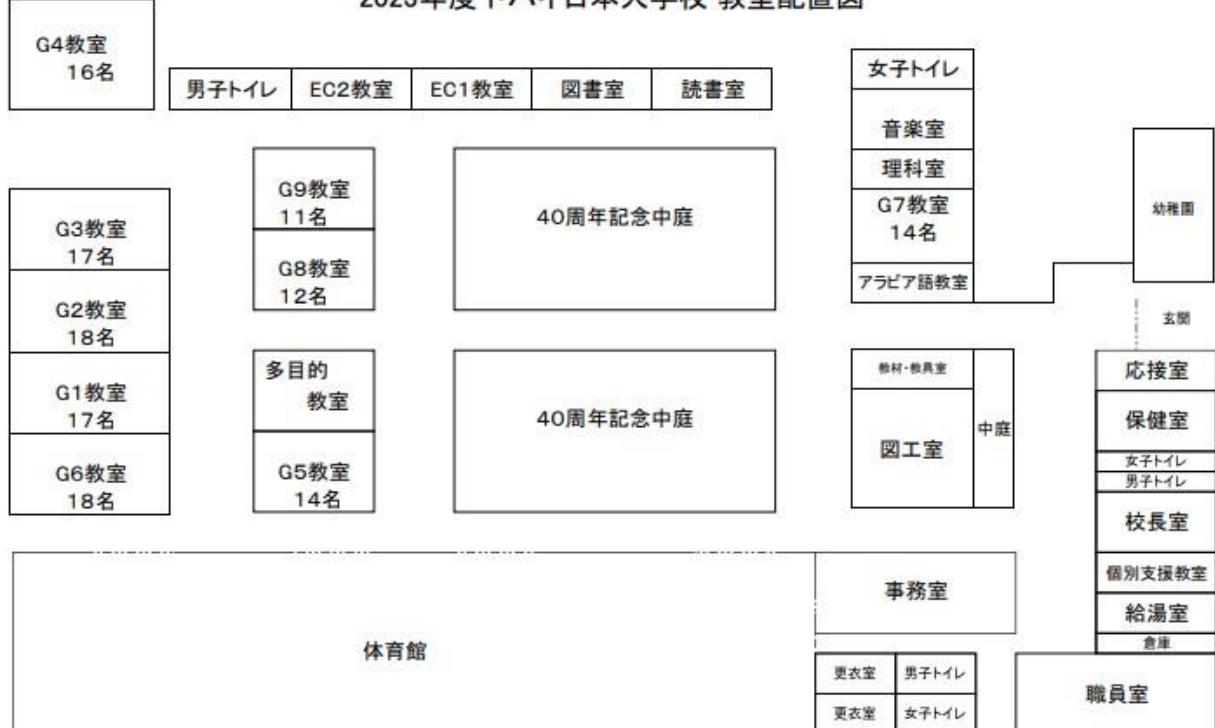


ドバイ日本人学校の中庭



ドバイ日本人学校の体育館

2023年度 ドバイ日本人学校 教室配置図



## (1) 教育課程

日本と同様の教育課程である。それに加え、大きな特色として、本校の全校児童生徒は英会話（EC）を週2時間、アラビア語を週2時間学んでいる。

## (2) 学校行事

学校行事は日本の学校と同様に行われている。それに加え、日本人学校ならでは、ドバイならではの行事もある。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ここ数年で様々な行事が中止になったり、開催方法を変更したりしての実施となっていたが、現在ではほぼコロナ禍前の形を取り戻した。以下は、主な年間行事をまとめた表である。

1 学 期		2 学 期		3 学 期	
4月	<ul style="list-style-type: none"><li>・入学式、始業式</li><li>・全体・学級懇談会（オンライン）</li><li>・避難訓練</li></ul>	8月 9月	<ul style="list-style-type: none"><li>・始業式</li><li>・身体測定</li><li>・避難訓練</li></ul>	1月	<ul style="list-style-type: none"><li>・始業式</li><li>・運動会</li></ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"><li>・CRT テスト</li><li>・学校参観日</li><li>・水泳指導開始</li><li>・進路説明会</li><li>・中学部修学旅行</li></ul>	10月	<ul style="list-style-type: none"><li>・熱沙祭</li><li>・実力テスト（中学部）</li></ul>	2月	<ul style="list-style-type: none"><li>・入学説明会</li><li>・避難訓練</li><li>・定期考查（中学部）</li><li>・ミナレ発表会</li></ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・定期考查（中学部）</li><li>・水泳記録会</li></ul>	11月	<ul style="list-style-type: none"><li>・定期考查（中学部）</li><li>・学校参観日</li><li>・体力テスト</li><li>・小学部修学旅行</li><li>・デイキャンプ</li><li>・DJS フェス</li><li>・ナショナルデー集会</li></ul>	3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・全体・学級懇談会（オンライン）</li><li>・卒業式</li><li>・修了式、離任式</li><li>・春休み開始</li></ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"><li>・実力テスト（中学部）</li><li>・個別懇談（オンライン）</li><li>・終業式</li><li>・夏休み開始</li></ul>	12月	<ul style="list-style-type: none"><li>・個別懇談（オンライン）</li><li>・終業式</li><li>・冬休み開始</li></ul>		

※本校では、熱沙祭（演劇発表会）と運動会が2大行事である。

※中学部修学旅行（G7～9が参加）と小学部修学旅行（G5、6が参加）は、砂漠キャンプ（G5～9）と隔年で行っている。（2024年度は修学旅行の実施）

### （3）児童生徒の一日の生活

多くの児童生徒が通学バスで通学しており、7:30～7:50頃登校する。通学バスの所要時間は自宅の場所によって大きく異なるので、7:00前にバスに乗車する児童生徒もいる。

学校での生活は、日本の学校と同様である。ドバイ日本人学校では、朝早くに通学バスに乗る児童生徒の健康面を考慮し、2時間目の授業の後に「ドバイタイム（スナックタイム）」を設けている。

帰宅後は、それぞれの家庭での生活である。日本人子女向けの学習塾に通ったり、スポーツや楽器、英会話、絵画、バレエ等の習い事に通ったりする児童生徒も多くいる。学校の仲間と遊ぶこともあり、休日には、家族単位で集まって公園やプール、モールなどで遊ぶこともある。

2017年10月にドバイ日本人幼稚園の新園舎がオープンし、3歳児、4歳児、5歳児を受け入れている。日本人学校の児童生徒と同じように登園し、14:15発の通学バスなどで自宅に帰る。

## 【生活時程表】（基本型）<G1～G9> 2023年度版

	月～木曜日	金曜日
登校	7:30～7:55 (7:55始業)	
朝読書	7:55～8:10	
朝の会	8:10～8:20	7:55～8:05
1校時	8:25～9:10	8:10～8:55
2校時	9:20～10:05	9:05～9:50
ドバイタイム (月～木曜日)	10:05～10:25	休憩 9:50～10:05
3校時	10:30～11:15	10:10～10:55
4校時	11:25～12:10	11:05～11:50
昼食	12:10～12:30	
昼休み	12:30～12:50	
5校時	12:55～13:40①	
6校時	13:50～14:35②	
7校時	14:45～15:30③	
帰りの会	①13:45～13:55 5時間授業の場合 ②14:40～14:50 6時間授業の場合 ③15:35～15:45 7時間授業の場合	11:55～12:05
下校バス	14:15 G1～9 15:30 G2～9 G1～9 15:55 G1～9 G1～9 (後席) G5～9	12:15 ※5分前乗車完了

	Mon, 17 <sup>th</sup> April to Wed, 19 <sup>th</sup> April
Attendance	7:30～7:55
Homeroom	7:55～8:05
1 <sup>st</sup> Period	8:05～8:50
2 <sup>nd</sup> Period	9:00～9:45
Dubai Time	9:45～10:00
3 <sup>rd</sup> Period	10:05～10:50 <small>1<sup>st</sup> grade (Homeroom 10:55～11:05)</small>
4 <sup>th</sup> Period	11:00～11:45
Lunch time	11:45～12:15
5 <sup>th</sup> Period	12:20～13:05
Homeroom	13:10～13:20
Bus Departure	13:30 <small>1<sup>st</sup> grade 11:15</small>

## 【教員の一日の生活】

通学バスが 7:30 頃から学校に到着するため、7:30 勤務開始である。担任は各教室で、担任外の教員は玄関や降車場で、登校してきた児童生徒を出迎える。

朝の会や授業時間の過ごし方は、日本の学校と同じである。帰りの会後は、16:00 に勤務終了である。

授業時数確保のため、7 時間授業の曜日もある。そのため、火曜日の勤務終了時刻は 17:00 となり、金曜日は 15:00 となっている。

## 3 ドバイ日本人学校「ならでは」の教育活動等

### (1) 二大行事

学校行事を通して仲間と共に成長する経験は、他のインターナショナルスクール校には無い魅力の一つであるといえる。ドバイ日本人学校では、年間 2 回の全校児童生徒が参加する行事を大切にしている。

#### ① 「かかわり合い」熱沙祭

毎月 10 月に低学年、中学年、高学年、中学部の 4 部に分かれて演劇発表を行っている。それぞれの発達段階に応じた題材を選び、台本を作成し、配役や小道具・大道具を決定する。児童生徒の達成感が得られ、保護者からの評価も高い行事である。



## ② 「みがき合い」運動会

一年間の集大成として毎年1月に運動会を行っている。小学1年生から中学3年生までの縦割りチームを編成し、中学2年生のリーダーを中心に自分達で団の運営を行う。上学年は低学年のお世話をしながら、一生懸命にダンスや応援合戦の練習に打ち込む。当日は本気の戦いを繰り広げ、笑いあり、涙ありの、児童生徒にとって思出深い運動会になっている。



## (2) ミナレ学習（総合的な学習）

本校では、総合的な学習の一環として現地理解を積極的に推進し、体験活動や現地校との交流活動、課題追究学習の充実を推進している。2月には保護者を招待し、一年間のミナレ学習の成果を発表する「ミナレ発表会」が行われる。

### ① 「ミナレ発表会」の様子



②「ミナレ学習の一環 現地理解（校外学習）」の様子を一部紹介

・バラカットジュース工場への校外学習



この校外学習は、本校の外国語（通称：EC）授業とミナレ学習の教科横断的な学習として実施された。食品を扱う工場であるため、加工作業を行っている施設内の見学は、マスク・衛生キャップ・衛生白衣の着用が義務付けられていた。また、撮影機器の持ち込みは厳禁で、待合室と正面玄関での写真のみ撮影することができた。

バラカットは、スーパーでジュースや果物メーカーとしてよく見かける、子供たちにとってもなじみ深い施設である。施設見学の大まかな流れとしては、実際に作業をしている様子を見学し、製品の試食をさせてもらうという日本でよく経験したスタイルであった。大きな違いを感じたことは、作業現場を工程に沿って目の前で見学することが、日本の食品加工工場ではないことだと感じた。

ガイドの内容は、山のように積まれたたくさんの種類の果物がどこからきたものか、それらを種類ごとに応じた機械で切り分けてること、作業員は分業制で働いていること、新鮮でおいしい商品を消費者に届けたいという作り手の思いなど、日本のものと同じような感覚を受けた。見学後、子供たちの英語を用いた質問にも一つ一つ丁寧に応えてくれた。このような工場見学の受け入れは、要請があれば常時行っているとのことだった。

子供たちの学習後の振り返りからも「これからスーパーに行ったら、バラカットの商品をよく見てみたい」と、好意的・意欲的な感想ばかりであった。普段の生活で目にしており、口にしているものが、どのような工程でできているかを体験的に学ぶことは、どの国においても深い学びへと繋げる有効な手立てであると感じた。

・エティハドミュージアムへの校外学習



この校外学習は、「ドバイの歴史を学ぶ」をテーマにドバイ郊外にある施設へ訪問した。90分間のスクールトリップガイド付きの学習であった。ドバイの社会教育施設の全体的な傾向かもしれないが、デバイスの持ち込み・撮影は自由で、子供達は見学後のまとめ・振り返り学習に向けて、各々意欲的に撮影をしていた。

ガイドの内容は、UAE（アラブ首長国連邦）がどのように結成されたかを、館内にあるパネル・シアターなどを活用して説明してくれた。一般的に90分間は子供達にとって長いと思われるが、実際に触る、聞く、見るなどの活動を入れ込むなどの工夫により、時間を感じさせない学習となった。

今回の学習で一番特徴的だったものは、最後にすごろくゲームを活用した振り返り学習を入れ込んでいた点である。子供達は、学んだ内容をお互いに話し合いながら深めることができた。日本の校外学習では最後にアンケートや感想を記入して終了する多かったので、自分にとっては新鮮で、校外学習を質の高いものにするために必要な活動だと感じた。

#### ・ Al Safa Art & Design Library (図書館) 見学



2・3年生合同で、校外学習（国語科・生活科）を実施した。今回は、Al Safa Art & Design Libraryを見学した。図書館職員が様々なプログラムを準備してくれた。最初は、日本語吹き替えの海外アニメーションを鑑賞した。内容は、低学年が興味を持って見ることができる内容を選定してくれた。後半は、アクティビティや英語を用いたクイズを準備してくれた。日々、英会話の授業を受けている子供達にとって、学習していることを生かせるものであった。日本で図書館見学を実施した際も、職員による読み聞かせなど様々なプログラムを組んでいただいた経験があるが、ドバイも同様で、こちらがお願いするまでもなく、図書館側から様々な見学プログラムを事前に提案してくれた。帰校後の子供達の振り返りでは、「楽しかった」「また来たい」というものがとても多かったので、子供達にとって有意義な校外学習になった。帰国後、図書館見学を実施する機会があれば、今回の経験を生かしてこちらからプログラムの提案をしてみたいと感じた。

### (3) アラビア語と英会話 (EC) の学習

ドバイで教育行政を管轄している「Knowledge and Human Development Authority」の指示により、本校では、全校児童生徒がアラビア語と英会話（EC）の学習を週 2 時間学んでいる。  
(令和 7 年度より、アラビア語は週 4 時間実施予定。)



# 4 現地での生活について

## (1) 基本情報

- ・通貨:AED ※略式でディルハム (Dhs) とも表記する。

1AED (1Dhs)=約 40 円

- ・時差:日本との時差は、マイナス 5 時間

## (2) 言語

公用語はアラビア語だが、英語で生活をすることができる。ドバイは、様々な国籍の人達がいる。それぞれが独自の英語を話すため、聞き取るのに苦労する。私たちが日常生活でアラビア語を使用することは、稀である。

## (3) 宗教

UAE はイスラム教の国であり、イスラム教典（コーラン）に定める戒律に基づいた生活をしている。ラマダン（断食）や巡礼の休暇、金曜日のお祈りなど、祝日や行事もイスラムの教えに則り行われる。しかし、外国人に対する制限は比較的ゆるやかである。

## (4) 治安

治安の良さは、日本以上である。警察官は、60 人に 1 人の割合である（日本は 500 人に 1 人）。しかし、女性の夜間の一人歩きは控えた方がよい。また、ドバイは車社会なので、運転する際の交通事故には十分気を付けなければならない。道路は広く（通勤路で片道 3~6 車線）制限速度は市街地でも 80~120 km なので、スピードを出す車が少なくない。運転のマナーはあまりよくなく、無理な割り込みや追い越しが多い。警察官やレーダー、カメラによる取り締まりが行われている。

## (5) 女性の服装

イスラム教の女性は、「自分の美を親族以外の男性に見せない」というルールがある。そのため、外出時はアバヤという黒い衣装を身に付け、黒いスカーフやベール等で頭を覆っている。一方で、ドバイには多様な人種・国籍の方々が生活しているので、皆それぞれの服装をしており、ラフな服装の女性も多く歩いている。ただし、イスラム教を生活の規範にしている国なので、状況によっては反感を招くこともあり、時と場合に応じた配慮が必要である。



## (6) 交通

交通手段はタクシーやメトロなどがあり、ドバイ交通局 (RTA) が管轄している。

タクシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本と同じメーター制で、初乗 5AED (約 200 円) である。</li> <li>短い距離で利用した場合でも、最低 12AED (約 450 円) かかる。</li> <li>RT の文字がないタクシーもあるが、割高になる。</li> <li>屋根がピンク色のタクシーは、運転手が女性である。</li> <li>安全のため、夜間に一人で乗ることはおすすめしない。</li> </ul>
メトロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゾーン制で、1 ゾーン 3AED (約 120 円) である。</li> <li>通勤時間帯は、1 分～2 分間隔で運行している。</li> <li>nol カード (日本でいう Suica) を購入し、料金をチャージしてから乗る。 (このカードを利用できるスーパーもある。)</li> <li>1 回ごとのチケットもある。車内は混雑することが多い。</li> <li>2 倍の料金を払うと、ゴールドクラスの車両を利用することもできる。</li> <li>メトロでは飲食が禁じられており、違反者は罰せられる。</li> </ul>
トラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>マリーナ地区を中心に、6 分～8 分間隔で運行している。</li> <li>距離に関係なく、1 回の乗車で 3AED (約 120 円) かかる。</li> <li>メトロと同じ、nol カードで支払いができる。</li> </ul>
バス	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゾーン制である。</li> <li>路線が複雑だが、安く利用できる。</li> <li>メトロと同じ、nol カードで支払いや乗り継ぎができる。</li> </ul>

## (7) 衣服

基本	ほぼ一年中夏服で過ごせる。GAP や H&M、ZARA などショップが多くある。ただ、同じものでも日本より高い。ブランド物からスポーツウェアまで、日本より品揃えが豊富である。ユニクロや GU はない。
冬物	外気温と室内の寒暖差が大きい。エアコンが効きすぎているところや、真冬の夜は寒いので、カーディガンなどの長袖があると便利である。
靴	ショップが多く、日本同様に買い物ができる。運動靴やサンダルなど、各種揃っている。小さい子ども用の靴も、たくさん売られている。



## (8) 食料品

食料品の数や種類はとても豊富で、ほとんどは輸入品である。日本食品を扱う店もあるが、値段は、日本国内の2~3倍である。日本食品の宅配サービスを行う食品会社もある。中華系スーパー、韓国系スーパー、インド系スーパー、フランス系スーパー、イギリス系スーパーなど、たくさんの国のスーパーがドバイにある。

＜どこのスーパーでも基本的に売っているもの＞

米	パン	調味料	牛肉	鶏肉
カリフォルニア米 エジプト米 日本米	食パン ナン サンドイッチ	塩 砂糖 酢 はちみつ スパイス	挽き肉 ヒレ肉 サーロイン	むね肉
魚	卵	牛乳	野菜	果物
エビ カニ 赤身魚 白身魚	※食中毒の可能性から、生食× ※消費期限が長い	低脂肪乳 濃厚牛乳 チーズ ヨーグルト	量り売り	量り売り
冷凍食品	ジュース	ナッツ	お菓子	インスタント食品
魚の冷凍もある	果汁飲料 炭酸 スポーツ飲料 エナジードリンク	量り売り	アイスクリーム チョコレート ポテトチップス ポップコーン	カップ麺 乾麺 カップヌードル UFO 辛ラーメン



## 5 おわりに

3年間の長期研修を振り返り、ひしひしと感じたことが二つある。一つ目は、校長のリーダーシップの下、組織として、教職員一人ひとりが共通の視点をもち、切磋琢磨しながら協働していくことの大切さは、日本国内であろうと在外教育施設である日本人学校であろうと、決して変わらないということだ。二つ目は、学校に対する保護者の関心の高さや信頼感、高い家庭教育力は、児童生徒の学力の向上や心身の安定にとって、必要不可欠なものであるということだ。

ドバイ日本人学校に派遣され、私たち教員には、児童生徒や保護者のニーズを的確に把握し、質の高い教育活動の展開、児童生徒が主体的に活動しながら成長できる教育を施さなければならぬという使命感があるということを、再確認することができた。その上で、私たちは、研究と修養、組織力の向上などが常に求められていることを忘れてはならない。私は、教職に就いてから16年目を終えようとしているが、あらためてこのような視点が持てたことも、この長期研修で得た財産である。

「おわりに」を作成する中で、このようなことを思い出した。3年前の派遣が決まった際、ある子供から「先生は、どうしてドバイに行くの？」と聞かれたことを今でも鮮明に覚えてい る。私の中の答えは、「力を付けるため」であった。その中には、「異国之地で実際に暮らすことで、自分の中のステレオタイプを払拭する」ことも含まれていた。異なる文化をもつ人々を理解するだけでなく、理解した上で、それらを受容しながら共生することのできる力を身に付けることが求められている中で、まずは指導者である自分自身が「そうありたい」という思いがあった。指導者が一つでも多く力を付けることが、教育を施す子供たちを成長させる近道であるという考えは、派遣前から今でも変わらない。

3年間の長期研修を終え、当初抱いていた思いや目標を達成できたかといえば、正直まだまだ道半ばである。全国各地からの派遣者と研鑽を重ねる中で、自分の力不足を痛感することも多々あった。異国之地で暮らすことで、あらためて日本の良さを感じることができたと同時に、異文化を理解、受容、共生することが、思っていたよりも簡単に感じる、逆も然りで、難しく感じる、そのような二面性を肌で感じることができた。

まとめとして、私には一つ胸を張って言えることがある。それは、「この3年間は自分の人生において、日本国内にいたら絶対に経験することのできなかった、唯一無二の価値あるものになつた」ということだ。

最後に、今回の派遣に関しては、私にきっかけを与えてくださり、派遣前や派遣中いつも親身になってご支援してくださった（十勝地区国際理解教育研究会元会長）川上裕明校長先生をはじめ、多くの方々のお力添えのお陰で実現したものです。この場をお借りして、お礼申し上げます。

ドバイでの3年間の経験で学び得たことを、今後の教育活動に生かし、生まれ育った十勝の地に還元していくことが、私なりの恩返しだと思っております。そのためにも、歩みを止めず、学び続ける教師として、日々精進していく所存です。

<引用資料>

「2023年度 ドバイ日本人学校 派遣教員のための赴任の手引き」